

センターだより

第38号

平成27年10月16日発行

Aomori Prefectural School Education Center
青森県総合学校教育センター
〒030-0123 青森市大字大矢沢字野田80-2
☎017-764-1997 FAX017-728-6351

明日の授業につながる授業のヒントを見つけに来ませんか？



あおもり教育フェスタ2015



平成27年11月20日(金) 9:30~16:00
平成27年11月21日(土) 9:00~15:30



予定している主な内容

- 研究員による研究発表(詳細は次頁をご覧ください)
- プロジェクト研究の発表(詳細は次頁をご覧ください)
- 教育研究団体の発表(21日)
○各地域で活躍されている研究団体が、おすすめの授業や教材等を紹介します。
- 授業力向上セミナー(下記をご覧ください)
- 専門高校による加工品の販売(数量限定, 21日)
○専門性を生かした活動の成果として、米やジャム、缶詰などを販売します。
- 体験コーナー(21日)
○体育館で子どもを対象に様々な体験ができます。



注目!

授業力向上セミナー(センターセミナーⅣ)

「子どもたちの活用力育成と校内研修の活性化」

日時:平成27年11月21日(土)
10:00~14:00



講師:鳴門教育大学大学院学校教育研究科
教授 村川 雅弘 氏

学校を基盤としたカリキュラム開発全般を研究対象としています。総合的な学習や生活科についての研究が中心です。研究の際は、学校現場との共同研究体制の下で展開する機会が多く、実践的な研究を行っています。現在、主体的・協同的学習のための学習方法、ワークショップ型研修の開発などを中心に研究しています。

研究員による研究発表

11月20日(金) 9:30~15:20 □頭発表(場所:大研修室, 中研修室)

11月21日(土) 9:00~15:30 展示発表(場所:中研修室)

「小学校第3学年理科の学習において、比較して考える力を育むための指導法について
—比較の視点の意識化を通じて—」 上山 香子(原籍校:十和田市立四和小学校)

「中学校理科において、ステップチャートを用いて学習意欲を高める指導法の研究
—観察・実験計画を立てさせる活動を通して—」 長内 郁典(原籍校:板柳町立板柳中学校)

「中学校英語科においてまとまりのある英語を聞き取り、概要を理解する力を高める指導法の
研究—推測する活動を通して—」 石久保 美喜(原籍校:青森市立新城中学校)

「中学校通級指導教室に通う生徒の計算に対するつまづきを改善するための指導
プログラム作成と試行」 山口 孝広(原籍校:弘前市立東中学校)

「社会的事象の意味を考え説明する力を育てる社会科学習の在り方—ICTを活用
した授業実践をとおして—」 白戸 一也(原籍校:佐井村立佐井小学校)

「小学校高学年におけるレジリエンスを育てるための指導—人間関係づくりを中心とした
プログラムの実践をとおして—」 山口 繁弥(原籍校:平川市立柏木小学校)

「児童の学級への満足感を高めるための対人関係をスキル般化プログラムの開発
—感情面に焦点を当てたSEL教材とコンセンサスゲームを用いて—」
仁木 一(原籍校:東通村立東通小学校)

「自己肯定感を育む教師の在り方について—生徒が望む教師の関わりをとおして—」
棟方 俊之(原籍校:八戸市立南浜中学校)



プロジェクト研究発表

11月20日(金) 10:20~16:00 □頭発表・展示発表

11月21日(土) 14:15~15:30 (場所:1・2・4・5 研修室)

学びを生きることにつなげよう プロジェクト

「21世紀型の学びを始めてみよう!」
「主体的に学ぶ力を育む授業とは…」
「アクティブ・ラーニングのすすめ」
「明日から使える!学びのレシピ」
「キャリア視点で授業を考える」

ICTサポートプロジェクト

「ICT(タブレット端末等)に活用促進
プログラム作成」
~分かりやすく深まりのある授業に向けて~

校内研修活性化支援 プロジェクト

「校内研修活性化パッケージ」って何だ?
「校内研修活性化支援パッケージ」の
バージョンアップに参加しよう!

より良い人間関係プロジェクト

「保護者に啓発!情報モラル」
「すぐに使える人間関係づくり」
「教師としてのやりがい再発見!」

開催された催し物のようす

模擬授業のようす

去る9月7日、青森市のリンクモア平安閣市民ホールにて、青森県教育委員会新規事業「主体的に学ぶ力を育む学力向上推進事業」の目玉である「学力向上フォーラム」が行われました。このフォーラムは、教員や教育関係者のみならず、保護者や一般県民も対象に行われ、約600名が参加されました。このフォーラムで、当センターは、参会された方々を生徒役にして二つの模擬授業を行いました。それらについて紹介します。

①小学校国語科 5年 話すこと・聞くこと

「相手や目的を考えて説明・紹介しよう～『その曲はどんな曲だ、その曲はどれだ』」

授業者 義務教育課 指導主事 福田真実

「言語活動の充実」の要となる国語科の授業として、切実感のある活動とするため、次の2点からアクティブ・ラーニングへのアプローチを試みました。一点目は、課題設定の条件となる「課題に気付く、課題を見いだす・捉える」力へのアプローチです。目的をもった言語活動に取り組んでいく中で、言語活動そのものの課題を子どもたちが自ら気付いたり、見いだしたりしていく授業も提案しました。二点目は、協働的な学びの素地となる「人間関係の力」へのアプローチです。自分の思いを言語化するとともに、他者との交流の中で自分をコントロールし、相手の思いを受け止め、その内容を相手に確かめ合うことのできる力を育てる言語活動を提案しました。

②中学校社会科 1年 地理的分野

「北アメリカ州～アメリカ合衆国を中心にして～」

授業者 義務教育課 指導主事 木村友昭

アクティブ・ラーニングの充実をめざし、社会科でよく行われている問題解決学習の精度を上げる提案をしました。具体的には二点あり、第一に、教科と総合的な学習の時間との関連を強調し、探究的、協働的に学ぶ問題解決学習です。コピー＆ペーストからの脱却をめざし、単元や本時の展開プロセスを、課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現の探究サイクルでまわし、課題の設定では理想（イメージ）と現実のギャップを活用する手法を用いました。第二に、思考ツールを活用した問題解決学習です。情報の可視化、操作化という要因をもつ思考ツールが、アクティブ・ラーニングを実現する状況を生成しやすいということを、ウェビングやKJ法などの手法で提案しました。



センターセミナーⅢのようす

去る10月3日、当センターで、特別な支援を要する子どもたちを考えるセミナーとして、セミナーⅢが行われました。講師は、不登校の子から発達障害のある子の問題行動まで、たちどころに直す手腕から「子育てブラックジャック」の異名をとる心理臨床家の奥田健次氏でした。



奥田氏から『叱りゼロで「自分からやる子」に育てるためのヒント』という演題でご講演をいただきました。問題となる行動を改善するためには、行動の直前や直後の変化に着目すること、子どもの反応を待つこと、「自由にどうぞの姿勢で対応すること」など事例を交えながら話していました。奥田氏の話しぶりに受講者は引きつけられ、うなづいていました。約250名という大勢の方々が参加され、盛況のうちに終了することができました。

